

平成26年度 生活科教育にかかわる現状と課題

部長 小林 克之

1 生活科教育の動向

○ 10月30日・31日、上越市立春日小学校・高志小学校を会場に、第23回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会新潟大会が開催された。「ともにかかわり合い・支え合う活動を通し、人間観に立脚した授業実践」「子どもの姿を肯定的に捉え、常に子どもの実態からスタートする活動」「未来に生きる子どもたちに勇気と希望、自信を与える実践」を全国から集まった大勢の参会者に発信した。

○ 燕市立分水北小学校で12月3日、1年生の生活科「いっしょがいいね」という公開授業を実施した。その後、＜グループや学級の話し合いは、子どもたちの思いをふくらませることに有効であったか＞＜家族の気持ちを考えることは、次の「にこにこ大作戦」を意欲的にすることに有効であったか＞という視点で検証した。

○ 新潟市の生活部では、「一人一人が学びを実感する生活科授業」という研究主題を掲げ、価値ある体験・交流・表現活動を工夫した生活科授業を目指して、一人一人の学びに焦点を当てた研究を進めた。そして、上所小学校2年生「作って遊ぼう～それいけ！ゴムカー発明隊～」、白根小学校1年生「ヤギさんといっしょ～ましろちゃんともっとなかよくなろう～」の公開授業を行い、研究主題に欠かせない「子ども理解」について研究を深めた。

2 生活科教育の課題

各地区において積極的な研修・実践が進められている。今後もさらに以下の視点で充実・改善に努めていきたい。

- ◆ 子どもの気持ちに寄り添うところからスタートし、「情意が動く気付きの高まり」を目指した体験活動と言語活動の充実
- ◆ 地域の豊かな学習材をベースにした活動展開を構想する教師力の向上と互惠性のある地域連携
- ◆ スタートカリキュラムの一層の工夫による幼・保・小の更なる連携